

きたのは 突然 たった

G Capo7 G Capo7 G Capo7 Am D  
冷たい風が吹いて きたのは突然 たった

C G  
夏があっという間に 僕の目の前から...

G Capo7 G Capo7  
楽しかった思い出が

Am G Am D G  
この夏は戻ってこない、見上げた向こうに

見上げた向こうに

特別な毎日が 目まぐるしく過ぎて

暑さに疲れても いろいろな刺激の中

忘れられない日々よ

思った以上喜びを感じた矢先に

G D Am D  
白いシャツが眩しかった光の中で

C G Am D  
思わず目を閉じたあの時に

G D F#m D  
まぶたに描かれたアツい模様を

C G Am D G  
今では見ることもできなくて

冷たい風が吹いて きたのは突然 たった

別れがあっという間に 僕の目の前から

楽しかった思い出が

この時間短かた ため息の向こうに

特別な毎日が 目まぐるしく過ぎて

気せわしく過ぎていても いろいろな刺激の中

忘れられない日々よ

めぐり逢った喜びを感じた矢先に

白いシャツが眩しかった光の中で

思わず目を閉じたあの時に

まぶたに描かれたアツい模様を

今では見ることもできなくて

## 秋になつて

G Am Bm An G D7

秋になつて 雨も上がつて

涼しくなつた 風も吹いてきた

ふとした時 起きる感情

秋の心と書いた「愁(うれい)」が

さみしい気持ちと物悲しい気持ちが

何でもない僕でも 詩人にさせる

今心の底に 流れて消えてゆく

思いを捕まえたとしても

二・三度音をちぎって 引いてく 涙のように

次第に小さくなってゆく

秋になつて 空も高く

薄くなつた 雲を見つめる

ふとした時に なんだか寂しい

気持ちになつて 思いにふける

何かを感じて センチになる気持ちが

何でもない僕でも 詩人にさせる

今心の底に 流れて消えてゆく

思いを捕まえたとしても

言葉にしたあとに なんだか違うコトが

次第に変わってゆく

# 天使の梯子

En Cmaj7 D Gm B7 Em Cmaj7 D G

<sup>G</sup>降りてきた天使たち <sup>Am</sup>光のカーテンから <sup>D</sup>

<sup>G</sup>曇り空突然 <sup>Am</sup>よれて <sup>D</sup>光芒が <sup>G</sup>かる

<sup>Em</sup>偶然 <sup>Cmaj7</sup>とはいえ <sup>D</sup>とも <sup>Em</sup>見えたとはい

<sup>Em</sup>何か良 <sup>Cmaj7</sup>…と <sup>D</sup>起きる <sup>Em</sup>予感 <sup>D</sup>

※ <sup>Em</sup>これまでのことは <sup>Am</sup>全て

<sup>D</sup>正しかったと <sup>G</sup>いわれてる <sup>B7</sup>

<sup>Em</sup>迷うことなく <sup>Am</sup>前向きに

<sup>D</sup>躍動して <sup>D</sup>ゆけは <sup>G</sup>い <sup>2time (D)</sup>

太陽は雲にかくれ 直接見えなくても

存在が <sup>アト</sup>ほつきりぬかる 向かう <sup>アト</sup>草花の向こう

空がおりなす 壮大なアート

時が許す限り 眺めて

天使の梯子が見れたら

きっと幸せになれる

いくつかの運が重なって

いつでも見れるわけでもない

(※～※※)

## うづめく光

歴史ある灯台に 上り詰めて 海を見た

飛ばされそうな帽子を押さえ 見下ろす波 うづめく光

コンクリートの階段 まわりながら登って

降りる人ともすれちがひ 最後のハシゴまで来た

背中をぶつけような穴をくぐったところで

最上階のスラブから 飛び出し 外に出られた

はるかに見える 遠くを 広がる大海原に

流れる波の大きさにも 圧倒され とうになる

下に降りて 見上げれば 綺麗な白 空に映える

灯台守に守られて 波のまじりに 白く光る

無料駐車場から サンロードを渡って

海岸につながらる 広い階段降りて

波食台地のスキマに 歩き回る小ガキが

波が打ち寄せるたびに 隠れて見えなくなる

目の前しぶきも感じて 広がる大海原に

打ち寄せる波の音にも 圧倒され とうになる

東見れば 日本一の山が見える 御前崎

空の中に 頂が 浮かぶように 白く光る

## Capo. 5 ノーマル D

G

一人になりたくて

D Em A7 D D Em A7 D

D Em A7 D  
ああ一人になりたくてD Em A7 D A  
夕暮れの街から海へ続く道をD Em A7 D  
何も持たずただ歩くだけでD Em A7 D  
気付いた時には最後の道を渡っていたBm G A A7 F#m  
おにずつ冷たくなってBm G A A7  
腕にかいた上着広げてG A Bm G A Bm  
両手を伸ばしてソレに身を

薄暗くなった砂浜降りて

波打ち際から少し離れたところ

西の空がまだ明るく

左の耳に感じる波のざわめき

おにずつ人がいなくなり

一人二人と帰ってゆく中で

寂しくなって一人恋しくなる

# Cap. 0. オープン Dm

## 黄色い田んぼ

0. 1 2 3 4 2  
D E A A A E

秋の田のかりほのいおのとまをあらみ

夜露濡れる リラをも悲しむのでなく

夜を静かに黙想するよりの静寂

大事な稲刈りを明日に控えて

泊まり番する昔の人のように

辛いばかりでなく 喜びもあったろう

0. 1 2 3 4 5 2  
D A Bm Em F#m G A

秋の夜 清々としたが

心待ちに つながる時

黄色い田んぼ 日差し受けて輝き

黄色でなくて まさに黄金色にたが

その風景は壮大な ひんやりになる

少し曇って 透明な風が吹いて

トシボの羽 時々キラリと輝く

曇った時 穏やかに 明るい。じやうたん

秋の風 透明さが

心待ちに つながる時

Capo. 6. 1-2ル (Am)  
Capo. 1 オープン Gm

DFm

また動き始める

① / > 0 5' 10' 2 > 0 5' 10' 2  
Am Day Day G G7 Cm7 Em Am Day Day G G7 Cm7 Em

> 0 5' 10' 2  
Am Day Day G G7 Cm7 Em  
よしなにため息出したことだろう

0 > 0 >  
Day Am Day Am  
立ち止まり振り向き動きも止まる

2 0 5' 10' 2  
Am Day G G7 Cm7 Em  
疲れたバに体もこわけ

0 > 0 >  
Day Am Day Am  
自分らしくいられな。無理かたた

10' > 0 5 10 5  
C Am Day G C G  
少し休まりと云を取り直して

10' > 0 5 10'  
C Am Day G7 C  
自分の心には気付きを感じて

1-2ル オープン Gm

どうでもいいこと考えてしま

立ち止まってもしろない。また動き始める

潰れてばかりか疲れる原因

そんなことするよりも素直であつた。

時には何もかも全て消去して

新たな生活もいいかもしれな。